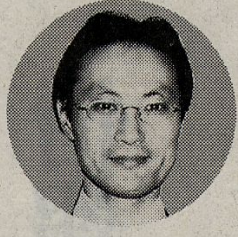


# 潮流

「赤ちゃん力」とは「赤ちゃんに本来備わっているもので、赤ちゃんのかかわりをもつ者に対して発揮される働きかけ、役に立つ影響」と、その著者である高塚人志・鳥取大学准教授は記されています。その副題には「人との関わりが人を育む」と書かれ、赤ちゃんのプラスのストローク（相手の存在や価値を認めるよ



松田 隆

鳥取県中部医師会副会長、NPO法人未来副理事長

## 赤ちゃん力と社会力

うなさまごまな刺激が、長は呼んでいます。赤ちゃんとかわるすべ最近の脳科学研究の進歩によって、赤ちゃんの大人もを育てていくとさまざま能力（脳力）が明らかにされてきました。一方、「人間は社会的動物である」といわれるように、そもそも人が生きていく上で最も大切な

た。生まれたばかりの赤ちゃんでも母親の顔を向くことができ、さらには、生後二―三時間で動きや応答が社会力をつき母親に限らず、赤ちゃんからプラスのストロークである赤ちゃん力によって大人として

作をまねることができるといいます。鏡などで自分の顔を映して見ると、赤ちゃんの動きを見たことがないことかかわらず、「初期知識」として、赤ちゃんはすでに多くの能力を持って生まれ、対人応答能力を身につけています。このように、小中高生も体系的、継続的に行政や地域の協力だけで

少子化の中で、赤ちゃんのふれあったことのない子どもが増えている現状を、異年齢・異世代である小中高生と赤ちゃんのふれあいの機会を意図的につくる「赤ちゃん登校日」が全国各地で取

ある中学生が「赤ちゃんとふれあうことで心が癒やされる」と感想を述べているように、赤ちゃん力によって、子どもたちの心が変わり、クラスが変わり、先生も家庭も地域も変わります。しかし、現在の忙しい学校現場では、先生だけで「赤ちゃん登校日」を実施することはなかなかできません。学校が赤ちゃんを招き入れるには、

必要となります。今後、このような指導者が各地に根付いて、コーディネートされた「赤ちゃん登校日」が広まる

厚司・前筑波学院大学学務司が、全国各地で取られます。

(倉吉市)